

# 追悼 中島 洋 さん

太平洋学会理事長 1931年4月生まれ 2016年11月29日没 満85歳



いまから40年近くも前のこと。ふらっと協会事務局に現れた中年男性は、古代史研究家だと名乗って、大和朝廷の水軍とポリネシア人の関係を延々と語りはじめた。口調がなめらかだったわけではない。かといって、学者っぽくもない語り口。得体の知れない人物ではあったがどこか魅力的で、初対面の彼の話引き込まれていった。

その人は中島洋、昨年11月29日、85歳で亡くなられた太平洋学会の理事長である。古代水軍の研究でポリネシアに興味を抱き、これが昂じて太平洋諸島全般についての研究をはじめた。ついては、『太平洋学会』なるものを立ち上げるが、その協会事務局を私の協会（当時の名称は日本マイクロネシア協会）内に置かせてもらえないか、というのが来訪目的だった。

彼が描く学会は、アカデミズムに特化した大学研究者だけの研究サークルではなく、学者もジャーナリストも市井の研究者も、太平洋に関心を抱く全てのジャンルの人たちが語り合い情報を交換し合う場にするという。思いがたくさん詰まった夢のある構想に、私も大いに魅せられた。だが、1978年に設立された太平洋学会は、結局は私の所には来ず、ほどなく赤坂見附駅近くのビルの一室に独自の事務局を構えた。中島氏が、東急グループの総帥五島昇氏を学会会長に招くことに成功したからだ。それでもそれ以来、中島氏と私、学会と協会の交流は、太平洋

の島嶼問題と島嶼人脈を通じて途切れることなく続いてきたのである。

太平洋学会の活動は、中島氏の個性そのものだった。太平洋好きの様々なジャンルの方々が集い、その話題も歴史・文化、人類学、環境問題、現代政治……と幅広かったが、中島氏はその全てに対応できるほどの物知りだった。私が知り合った初期のころの名刺には「法政大学非常勤講師」の肩書きがあったが、驚くことに教えていたのは体育教科のテニスだという。体育関係学部卒業でない者が、スポーツ実技能で大学教員になるには、全日本クラスの大会で8位以内の入賞を果たした者との大凡の基準がある。だから中島氏は、かつて日本を代表するテニスプレイヤーの一人だったはずだ。そういえば葬儀には、松岡修造名の献花が並んでいた。彼の魅力を形成する幅の広さや懐の深さ、知識量の豊富さからすれば、私の知らないもっと様々な特技や能力を有していた人だったように思える。

しかし残念ながら、太平洋学会はこの3月をもって解散するという。もはや五島昇氏は亡く、中島氏ほどの情熱と吸引力をもって学会を引き継ぐ方も出てこなかったからだろうか。それでも彼が果たして来た業績は消えることはない。日本と太平洋島嶼地域との今日的関係発展に尽力する方々の多くが、中島氏が描いた太平洋への思いを共有しているからである。合掌

(小林 泉)